

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2012年12月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第540号

御多分にもれず、牧師になつてからの20数年、クリスマスシーズンを担当させていただいている教会以外で過ごしたことはほとんどありません。クリスマスは泳ぐようにして年末にたどりつき、エピソード(公現日)を迎えると、めでたく一歳をとりまします(誕生日なので)。

そんな中での例外。私はクリスマス礼拝を終えた翌日から、人権センターとちぎが行なっている「ダリット(被差別者の自称)と先住民族の自立支援プロジェクト」に参加しました。インド南部、タミルナードウ州チェンナイ市と近郊農村、先住民族のコミュニティを訪問し、農村開発プロジェクトや女性たちの自助活動を見学したり、共に参加するためです(このプロジェクトは1996年から16年続けられており、毎年報告集「未来を紡ぐ大地・インド訪問の旅」が発行されています)。

インド洋沿岸地域が大規模な地震と津波による多大な被害を受けたのは、チェンナイに住むダリットの牧師、ジョンさんがおられる村を訪れる前日でした。津波が起きた朝

は日曜日でしたから、海岸近くの教会では、礼拝をしていただくの人数が倒壊した礼拝堂の中で亡くなりました。子どもを抱いたままの母親。海辺では、船は打ち上げられ、網などの道具もぼろぼろのただの縄になっていました。クリスマスを迎えた礼拝が、その直後に吊いの礼拝となりま

## クリスマスに思うこと



日本クリスチャン・アカデミー

理事 増田 琴

した。

死の匂いが立ち込めているような中で、それは深い闇、暗さの中にあるように思いました。人々はそれを *Sin in the darkness*、暗闇の中に座っている、と言いました。暗闇の中に放り出されている、と。だれにも言葉を語ることが

できないような礼拝に集っている中で、ヨハネによる福音書から語り始められました。「神は私たちの間に宿っている。形をなくし、生きる術を失い、もはや全く先行きが見えない。確かに私たちは暗闇の中に座っている。しかし、神の独り子が、イエス・キリストが私たちの間に宿ってお

す力、生かす方がまさに私たちの隣りに生まれられたのだ、と。

クリスマスシーズン、私はそこで「イエスを生み出す働き」という言葉と出会いました。暗闇の中に光を灯す働き、言葉が受肉することの意味に触れたように思ったのです。

ヨハネによる福音書で「わたしたちの間に宿られた」(1章14節)と記される「宿す」という言葉は、ヘブライ語では「テントを張る」という言葉です。この暗闇の中にテントを張るようにおられる。そのため、イエス・キリストが私たちの間に生みだされました。

クリスマスアカデミーの働きも、そうした「言葉を生み出していく」ことにあるのだと思います。暗闇の中でもがいているような現状にあつて、テントを張るように共に座し、囲み、語り合うこと。そんな光を灯す働き、イエス・キリストを宿す働きが広がっていきますように。クリスマスを迎える時期に、祈りをあわせたいと思います。

(巣鴨ときわ教会牧師)

関西セミナーハウス活動センター

●2012年度修学院フォーラム「エネルギーを考える」

「原子力発電の根本問題と我々の選択」

科学・技術の視点から

福島第1原発事故独立検証委員会委員長

北澤 宏一さん

キリスト教倫理の視点から

関西学院大学法学部教授

栗原 輝夫さん

2012年10月7日(日)〜8日(月・祝)

2011年3月11日の福島原子力発電所の暴走は、私達の生活がいかに脆弱かつ危険な基盤の上に築かれているかを露にした。原子力発電の危険性を警告する声はかねてよりあった。しかし多くの日本人は、それを気に止めなかった。今回の事故は、このままいいのかという問いを鋭く突き付けた。危険な原子力発

電に依存するのを直ちに止める。ようという声が大きくなっている。しかし原子力発電を止めたら日本経済は立ち行かなくなるという声も大きい。我々は、どの道を進むべきであらうか。対立する意見の相違を越えて、最も適切な道を選びとり、それに向けて歩み出さなければ、次の世代に安心して生きていける社会を譲



り渡すことはできない。

かつてドイツのクリスチャン・アカデミーは、東西の対立する意見の相違を越えて、忍耐強い対話と祈りの運動を主導し、ついに東西ドイツの統一へと導いた。我々はこの例に倣い、この日本において、鋭く意見が対立する原子力発電問題について、その意見の相違を越えて一致して進む道を探るため、対話と祈りの歩みを具体的に始めたいと願った。

前独立行政法人科学技術振興機構理事長で福島第1原発事故独立検証委員会委員長の北澤宏一さんと、関西学院大学法学部教授の栗原輝夫さんに発題をお願いし、10月7日

(日)午後4時から、翌8日(月・祝)午後4時まで、関西セミナーハウスで、参加者がこの問題について時間をかけてゆっくり考え合う会を企画した。この呼びかけに応えて、遠く北海道や、福島県、東京都、つくば市からも、部分参加も含めて45名もの人が集まって下さった。大学の教授、名誉教授、高校教師、会社経営者、会社員、医師、牧師、学生、大学院生、主婦など様々な立場の人が参加した。

北澤さんは、原発事故検証委員会委員長および、学術会議東日本大震災復興対策委員会エネルギー政策の選択肢分科会委員長を務めた経験を踏まえて、豊富なデータを用いて、まず原子力発電がいかに魅力的なエネルギー源であるかを紹介した後、しかし一方でそれがいかに大きなリスクを孕んだ技術であるかを示し、今原子力発電に依存している30%のエネルギーの中で、15%は省エネルギーで、残りの15%は風力、太陽光、水力、地熱などの再生可能エネルギーで賄い得ると語った。さらに原子力発電は国が推進しなければ成り立たない技術で



あるが、再生可能エネルギーは、いつでも、どこでも、誰でも得ることができるものであることに注意を促し、これに関する技術は、今世界で急速に進んでおり、日本もチャレンジするに値すると語り、クリスチャン・アカデミーのような団体が、この運動のコーディネーターになることを期待すると述べた。栗原さんは、かつて教会の指導者と神学者は、原発を神からの贈り物として歓迎したが、スリーマイル島事故とチェルノブイリ事故を経て、自然を破壊するもの、次世代に負債を残すものとしてこれを認識し、やがてこれを秘密



主義的で、独占的で、経済・権力を優先する巨大技術であり、バベルの塔に比すべきものとして認識するに至ったと述べた。一方、風力、地熱、水力などの再生可能エネルギーは、地方分散型で開放的で、人と人を繋ぎ、人間にも自然にも優しく、あらゆる生命を保全する神からの恵みの技術として位置づけられると強調し、田中正造や内村鑑三は、巨大技術の問題点を早くに見抜き、これを批判したと付け加えた。

北澤さんは科学・技術の視点から、栗林さんはキリスト教倫理の視点から、共に再生可能エネルギーを、私達の向

かうべき方向として示した。これらの発題を受けて参加者は、1日目は深夜11時まで、2日目も時間一杯真剣に質問し、意見を出し合った。講師は、休む間もなくこれらの質疑応答に丁寧に応答した。

2日目の朝には、希望者がシュペネマンさんの導きにより、聖書朗読と音楽による静想の時を持ち、私達の思いではなく、神の御心がなることを祈った。

福島から参加した医師が、福島を忘れないで下さい、福島を恥としないで下さいと訴えたのが、印象的であった。これは、我々の原点であると思われた。

最後のはなしあいでは、ある牧師が「正義は愛に先行する。しこうして愛が正義を全うする」(ブルンナー)の言葉を引用し、我々は、まず人知を動員して冷静な科学的判断に立つて方向を見定めるべきこと、しかし最終的には、その科学的判断を越えて、愛あるいは信仰に促されて果敢に行動すべきだと述べられた。

こうして、多くの人が再生可能エネルギーの普及のために、自分の生活の場で可能な

かろうべき方向として示した。これらの発題を受けて参加者は、1日目は深夜11時まで、2日目も時間一杯真剣に質問し、意見を出し合った。講師は、休む間もなくこれらの質疑応答に丁寧に応答した。

2日目の朝には、希望者がシュペネマンさんの導きにより、聖書朗読と音楽による静想の時を持ち、私達の思いではなく、神の御心がなることを祈った。

福島から参加した医師が、福島を忘れないで下さい、福島を恥としないで下さいと訴えたのが、印象的であった。これは、我々の原点であると思われた。

最後のはなしあいでは、ある牧師が「正義は愛に先行する。しこうして愛が正義を全うする」(ブルンナー)の言葉を引用し、我々は、まず人知を動員して冷静な科学的判断に立つて方向を見定めるべきこと、しかし最終的には、その科学的判断を越えて、愛あるいは信仰に促されて果敢に行動すべきだと述べられた。

こうして、多くの人が再生可能エネルギーの普及のために、自分の生活の場で可能な



試みを始めるなら、やがて人がそれでも原子力発電が必要だと言わなくなる日が来るであろう、と思われた。

どの人も遠慮なく自由に語れる良い会だったと言って頂けた。講師も、刺激的なディスカッションに参加し、意義深い2日間であったと言って下さった。電子メールが普及し、会って言葉を交わすことが少なくなった今日、直接会って、熱き議論を戦わせることの豊かさを実感させてくれた会であった。

今回の講演と話し合いは、録音から起こして、キリスト教系出版社から出版される予定である。多くの人が、それ

試みを始めるなら、やがて人がそれでも原子力発電が必要だと言わなくなる日が来るであろう、と思われた。

どの人も遠慮なく自由に語れる良い会だったと言って頂けた。講師も、刺激的なディスカッションに参加し、意義深い2日間であったと言って下さった。電子メールが普及し、会って言葉を交わすことが少なくなった今日、直接会って、熱き議論を戦わせることの豊かさを実感させてくれた会であった。

今回の講演と話し合いは、録音から起こして、キリスト教系出版社から出版される予定である。多くの人が、それ

を通し、この対話と祈りの輪に加わって下さることを期待する。

主のご降誕を  
お祝い申し上げます。



◎ご支援のお願い◎

アカデミーのプログラムの維持運営には、皆様のご理解、ご支援が不可欠です。アカデミーを継続的にご支援下さる方は、東・西活動センターの賛助会員としてご協力下されば幸いに存じます。任意のご寄付も随時お受け致します。いずれもプログラム活動のため有効に使わせていただきます。

・ご一報いただければ、払込料当方負担の払込用紙をお送りします。

**プログラム案内**

◆**関東活動センター**

■**アカデミー新年のつどい**

「ネパールの山村で絵画を」

第 1 部 講演 11 時～12 時 30 分

講師 金斗鉦さん (画家・イラストレーター)

第 2 部 交流と懇親 12 時 30 分～14 時

日 時：2013 年 1 月 19 日 (土)

会 場：日本キリスト教会館

参加費：2,000 円 (第 1 部のみ 1,000 円)

■**日本クリスチャン・アカデミー 聖書講座**

講 師：吉岡康子さん (青山学院短

期大学宗教主任)

日 時：2013 年 2 月～6 月の月曜

日 夜 (19:00～20:30 予定)・原則月 1 回 全 5 回

① 2 月 18 日 ② 3 月 18 日 ③ 4 月 15 日 ④ 5 月 20 日 ⑤ 6 月 17 日

会 場：日本キリスト教会館 6 階 会議室

参加費：1,200 円 (賛助会員 1,000 円/学生 500 円)

共 催：早稲田奉仕園

■**今日的課題プログラム**

「脱原発社会と自然エネルギー」

講 師：牛山 泉さん (足利工業大 学教授)

日 時：2013 年 2 月 16 日 (土)

14:00～16:00

会 場：日本キリスト教会館

参加費：1,000 円 (賛助会員 900 円/学生 500 円)

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2012 年度 修学院フォーラム**

「高齢を生きる一認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」

第 4 回 『自分らしく、人間らしく』死にたい?—尊厳死・安楽死を考える

講 師：大谷いづみさん (立命館大 学産業社会学部教授)

日 時：2013 年 1 月 19 日 (土) 13:30～17:30

会 場：関西セミナーハウス

参加費：2,000 円、学生 500 円 (コーヒード)

ウェブサイトを  
ご覧ください

財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
理事長 シュペネマン クラウス

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
TEL 075-711-2147  
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館 1 F  
TEL 03-3207-6198  
FAX 03-3207-2478  
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115  
E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117  
E-mail:office@academy-kansai.org

**賛助会費・後援会費・寄付金報告**

2012 年 10 月 1 日～2012 年 10 月 31 日  
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

戒能 信生 10,000

第 4 回神学生交流プログラム募金

吉見 崇一 1,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

(株)アイウィル 50,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

中上 卯一郎 5,000

金山 顕子 5,000

岩崎 裕保 5,000

柳原 清美 5,000  
柳井 繁彌 5,000

寄付金

高橋 望 1,000

廣岡 正久 500

高畑 恵子 3,000

金山 顕子 20,000

織田 雪江 15,000

佐藤 友紀 7,000

第 4 回神学生交流プログラム募金

山本 一成 10,000

真鍋 裕子 3,000

吉崎 聡子 3,000

平野 正 10,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

**関西セミナーハウス**  
＜修学院きらら山荘＞

～四季折々の自然に囲まれた、閑静なたたずまい～

研修・会議、各種セミナー、合宿、ご宿泊、会食などに  
ご利用ください。個人様でもご利用いただけます。  
お得なシーズンプランをご用意しております。

電話：075-711-2115(代) fax：075-701-5256

E-メール：info@academy-kansai.com

URL:<http://www.kansai-seminarhouse.com/>